



「文化的施設整備事業」に係る意見公募 結果について



2021.9.10発行
特集 | No. 09

発行 | 四万十町役場企画課 文化的施設整備推進室
お問い合わせ先 | 0880-22-3124 担当 | 大河原・松下

＼ 6/14(月)～7/30(金)実施 /

「文化的施設整備事業」に係る意見公募

結果について

本事業に係る意見公募では、多数のご意見やご提案等をいただきありがとうございました。前号でも結果について簡単にお伝えしましたが、今号ではお寄せいただいたご意見等の具体的な内容についてお伝えします。いただいたご意見やご提案等は実施設計やサービス計画の策定及び今後の施設の運用などに反映させていただきます。

△こちらの紙面でお伝えする内容は担当部署において分析・要約したものです。お寄せいただいたご意見及びご質問等の原文、また町からの回答は下記に記載している公表場所からご確認ください。

意見募集の内容

- ① 文化的施設整備事業に関するご意見やご質問
- ② 実施設計への反映やサービス計画の策定に向けてのご意見やご提案 など

意見公募の結果及び回答の公表場所

(1) 閲覧(公表)場所

- ▶ 四万十町役場
 - ・本庁 西庁舎(JR駅側) 1階閲覧所
 - ・大正地域振興局 1階閲覧所
 - ・十和地域振興局 1階閲覧所
 - ・興津出張所
- ▶ 四万十町立図書館・美術館
 - ※大正分館については、大正地域振興局1階閲覧所に設置しているものをご覧ください。

(2) 町公式ホームページ

意見公募結果の概要・分析

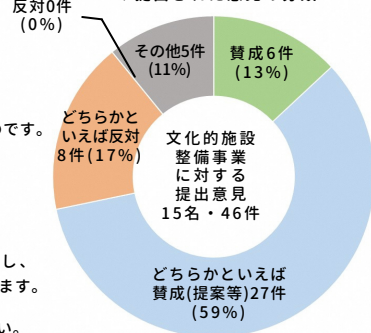
- ▶ 提出意見：15名・46件
※件数は、整理・回答しやすいよう便宜上仕分けしたものです。
 - ▶ ご意見等の内容を分析した結果
 - 「賛成」「どちらかといえば賛成」 33件・72%
 - 「反対」「どちらかといえば反対」 8件・17%
 - 「その他」 5件・11%
- 人数でみても大半の方から文化的施設の整備に関し、前向きなご意見やご提案をいただいたものと捉えています。

- ▶ 具体的なご意見等の内容については裏面をご覧ください。

▼意見公募の結果 についてはコチラ



▼提出された意見の分類



その他、意見公募手続以外にも以下のとおりご意見等をいただいています。
町民・各種団体・附属機関等への説明及び意見交換会、建設予定地周辺町民意見交換会、意見公募手続による意見とは別に寄せられたご意見やご提案、役場職員に対する意見募集 など

四万十町の新しい文化的施設

(仮称)

お寄せいただいたご意見・ご質問等(要約)

◆施設整備に向けた取り組みについて

- 意見公募を実際に書いてみよう！という中高生向けのワークショップは素晴らしいと思った。定期的にあると嬉しい。
- 図書館、美術館と役場各課の連携やホームページの充実を望む。
- 文化的施設整備について説明をする機会は、待ちの姿勢ではなく、積極的に地域を訪れて行ってほしい。集落への集会などに出向くことでこれまで図書館にも文化的施設にも縁遠かった人々が自分事として考える機会にもなるし、思わぬニーズを掘り起こす可能性もある。

◆図書館機能について

- おもちゃで遊べ、多少騒いでも大丈夫な環境のあるキッズスペースの充実した図書館に期待している。
- 奥まったスペースでソファでくつろいで本を読める場所があると嬉しい。
- 自分で買わない図鑑や写真集が充実しているかつワクワクする。
- 若者向けのトレンド雑誌等、様々なジャンルの本や雑誌をデジタルでもいいので置いてほしい。
- 本を読む場所にクッションや背の低いソファがほしい。
- デジタル情報社会が進んでいく中で、課題解決のために図書館資料を拡充する必要性がどの程度あるのか。図書館機能のニーズを見直すことで、拡充部分を削減し規模縮小が見込まれるのではないかと。
- どのように町民のニーズを拾い、図書館機能のサービス運営へ反映させていくのか。
- 蔵書冊数(量)より蔵書の種類(質)について気になる。
- STEAM教育の実施主体やサービスの提供方法などについて教えてほしい。

注：ご意見を9項目に仕分けした上で、主旨を損なわない程度に要約し、受付順に記載しています。原文および回答は表面に記載の公表場所でご確認ください。

◆美術館機能について

- 美術作品の点検、保管、展示や活用について具体的に教えてほしい。
- 芸術作品は実際に近くで見えることにより感動するもの。貴重な作品をたくさん所蔵しているのが有効に展示してほしい。
- 町のこれからの文化発展と保存・継続のため個展やグループ展のできるコーナーが必要だと思う。
- 作品の収蔵スペースの不足について、適切な作品の管理と保存状態の整備の課題がクリアできるサービスが確保されているか。優先的に改善する必要がある。

◆コミュニティ機能について

- 芝生スペースや2階の階段前のホールで50人くらいのミニコンサートができるといいと思う。
- 多目的で遊びのある空間が共存した施設に期待する。
- 芝生のスペースにパラソルやテーブルなどを置いてほしい。気軽に外遊びができる空間があったら嬉しい。
- 様々な世代が居場所や交流の場としての活用を想定するならば、使い方・ニーズを様々な世代に聞いてほしい。
- 交流のツールとして、ハイテクなものだけでなく、将棋やボードゲームなどもあっているのではないかと。

◆施設整備後の運営について

- 町民も一体となって官民が意識して施設の運営に取り組むべき。
- 運営計画において具体的に綿密な計画と定期的な評価改善が必要。そこで、モニター制度の活用と町民からボランティアによる評議員を募ることを提案する。文化的施設を町の財産としていかなければならない。

◆施設に期待すること(役割)

- 施設内に「子育て支援センター」を設置したらどうか。全体のコンセプト、施設内容は素晴らしいと、建設が待ち遠しい。
- これまでの取組や経緯、現在の説明資料や広報などを読み、大きなビジョンも具体的なアクションもおおむね表されている。今後のサービス計画についても大いに期待が膨らむ。
- 四万十町ならではの課題に、官民協働で寄り添っていきける体制が整うことを望む。町全体で情報を共有していきける仕組みや仕掛けがあるとよい。
- 「知る権利」は生涯学習の根幹である。私たち個人がどういう世界にしたいか考えるときに文化的施設が助けになると思う。
- 未来への負担になるのではなく心配・懸念は当然のこと。未来のため、今すぐでも必要としている人も地域もあるなか今を逃し、先送りしてしまうことが得策とも思えない。速やかに健やかに文化的施設がスケジュール準で完成し、基幹的役割をもって、町全体にそのサービスが波及することを町民として望む。
- 図書館で知識を得たり、アートで感性を磨いたり、人とコミュニケーションを気軽に取れる場所は自分の生活になくしてはならないもの。それらの施設が一つの場所として集約されることに期待している。
- 十和でも文化的施設を縮小した形なので、同じように人ふれあい、図書で知識を得たり、感性を磨ける場所ができることを希望します。そして、文化的施設にも気軽にいける環境を整えたいと嬉しい。
- 「地域活動支援センター」を設けてはどうか。多機能型の文化的施設を創るのであれば、様々な困難課題を抱えた人たちに目を向け、その解決の役を担うものになってほしい。これまでこの地域に不足していた文化的資本を生み出し、地域住民にとって広い意味での生涯学習の拠点となることを強く願う。
- 各種の展示物が一つの建物の中で見たり、聞いたり、活用できるのはいい。「箱ものばかり作って」といわれることを願う。

◆事業費について

- 総事業費約16億円のうち、(意見公募手続説明資料p.3にある)必須部分のみでの整備の場合と、機能拡充した場合とで、総事業費にどの程度の差がでるのか教えてほしい。

◆職員の人員配置等について

- 開館前から運営の知識を持つ専門職員を採用し、準備が必要がある。
- 本のアドバイスをしてくれる司書の常駐は必須。
- 文化的施設の職員採用基準や採用試験の有無等あれば具体的な業務内容や給与形態等公開してほしい。

◆その他のご意見

- 駐車場不足が懸念される。不便さは足が遠のくし、駐車場があふれるなど周辺への影響に不安がある。
- エントランスは壁をなくした方が施設に入りやすく、空調費用削減やイベント使用など自由度が高まるのではないかと。
- 四万十川をブランドとして打ち出している町として、施設内や取り組みにその存在も強くほしい。
- 「あれも、これも」の姿勢が貪欲すぎるがゆえに膨大な総事業費、町民の感覚とのギャップを生んでいるように感じる。サービス計画の策定における優先順位付け、4つの機能の選択と集中、ニーズに即したサービスの検討を行う必要がある。
- 完成までのプロセスの中で、多くの町民が関わることでできる余白や機会を設けてほしい。「こどもの未来への投資」という言葉は、これからこの町でこどもを産む、育てようとする世代にとっても、町を担っていく、生活していく世代にとっても響くものではない。それ以上に、改善してもらいたい不安要素のほうが大きく、それらが置き去りにされている気がする。
- 四万十町の気候や地理的特性を考えると、ドローンを用いた資料の配送にはリアリティを感じない。現在存在する流通網を活用するのがいいのではないだろうか。地域の集会所などの施設で資料の貸借が出来る基盤やネットワーク化を今できる仕組みの中で構築することが先決ではないかと。
- 物事を新しく構築するとともに、各地域にこれまであったものを記録するだけではなく、再生・再生する資料や機会などを提供することが必要ではないかと。
- 文書のデジタル化というのだが、古文書や道具物の保管は施設内に収めきれないと思うので、保管場所は現状のままでよいが、管理にも目を向けてほしい。

開館までの流れ(予定)

